

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
36	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名 (原題/訳)	
A human laboratory study of the effects of quetiapine on subjective intoxication and alcohol craving. 中毒自覚とアルコール渴望に対するクエチアピンの効果に関するヒト実験室研究	
執筆者	
Ray LA, Chin PF, Heydari A, Miotto K.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Psychopharmacology (Berl). 217(3):341-351 (2011)	
キーワード	
アルコール依存症、クエチアピン、アルコール渴望、中毒自覚	
要旨	
<p><b>背景：</b> 現在利用されているアルコール依存症の治療効果はあまり高くなく、治療に対する患者の応答性も様々で一定しない。D<sub>1</sub>、D<sub>2</sub>、5-HT<sub>1A</sub>、5-HT<sub>2A</sub>、H<sub>1</sub>、<math>\alpha</math><sub>1</sub>、<math>\alpha</math><sub>2</sub>受容体の遮断作用を持つ非定型統合失調症治療薬であるクエチアピンは、12週間の二重盲検プラセボ対照試験で禁酒状態の促進、飲酒日の減少、大量飲酒機会の低下などをもたらすことが示されている。</p> <p><b>目的：</b> クエチアピンはアルコール依存症の薬物療法として有望なものであるが、その作用機序は必ずしも明白ではない。本研究の目的は、中毒自覚とアルコール渴望に関する効果を評価することで、アルコール依存症に対するクエチアピンの生物行動的機序について検討することである。</p> <p><b>方法：</b> 治療を求めているアルコール依存者 20 人をクエチアピン (400 mg/kg) 投与群とプラセボ対照群に無作為に割り当て、二重盲検プラセボ対照試験を実施した。被験者は設定薬物量を 4 週間投与され、その期間中、飲酒、睡眠、気分、不安に関して週ごとに判定された。また被験者のアルコールと生理食塩水の静脈内投与によってもたらされるアルコールの中毒自覚 (The Subjective High Assessment Scale) やアルコール渴望について評価した。</p> <p><b>結果：</b> アルコール投与でもたらされる渴望や週ごとのアルコール渴望の報告などの評価から、クエチアピンはアルコールに対する欲求を効果的に抑制する。さらにクエチアピンは、アルコール投与で生じる中毒自覚と鎮静作用を低下させた。</p> <p><b>結論：</b> アルコールによる中毒自覚やアルコールに対する渴望を抑制することが、クエチアピンのアルコール依存症の薬物治療における生物行動的作用機序となっていると考えられる。この結果を基に、将来、類似の大規模な研究の実施で、クエチアピンのより適切な使用のための情報を得ることができると考えられる。</p>	